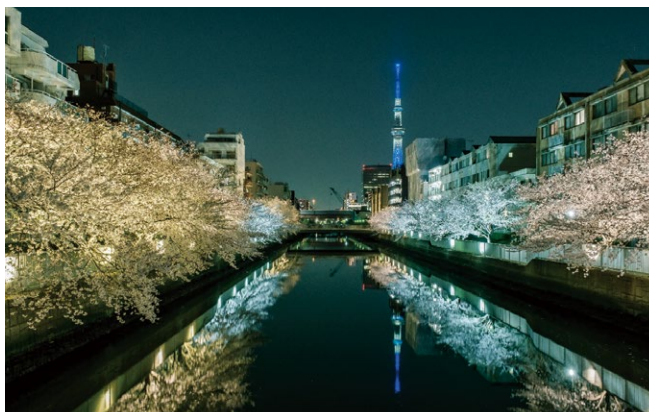


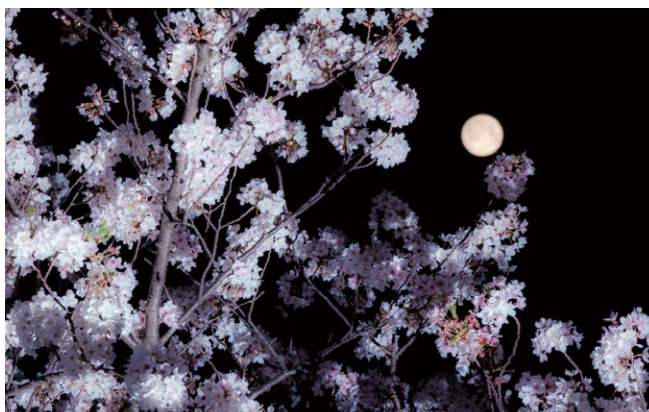
## 「変わらないわが街を願う」

山川陽子

私は縁あって墨田区に職を得(46年前)その後結婚し今にいたります。舅は銀行員から義母の実家の家業(高辨商店)を継いだ人で、洒脱で楽しい人でありました。2人とも私が仕事を続けるのに子供達の面倒をみて支えてくれました。亡き義父母が過去を語る時、人生で一番大変だったのはいつか、の問いに舅(明治生まれ)は「関東大震災(中学生)で歩いて学校から日暮里の家へ帰った事。」、姑(大正生まれ)は「実母が亡くなった後の初めてのお産」と答えました。ところが義父母が亡くなってから遺品(写真など)や残した事柄(離れた地所の整理など)を処理しようといろいろ調べてみると、2人の人生に大きく負の部分があるとしたらやはり太平洋戦争であると思ひ至りました。舅は出征しても助かりましたが裕福な実家は傾き、墨田区の現住所生まれの姑については戦前の戸籍が東京大空襲で焼けてしまい、相続時に何回も焼失証明をもらわねばなりませんでした。私の亡き両親にも言えることですが、太平洋戦争を生き抜いた当時の大人達は戦争で多くの友を失い「自分だけ生き延びて申し訳ない」(実父の死ぬ直前の言葉です。)と想っていたらしいです。



墨田区菊川橋の上から「コロナに打ち勝とう」の青いスカイツリーと夜桜を眺めた。反対側の江東区へこの大横川と桜は伸びており例年は「下町の桜」として人で賑わう。2020.4.2



今年最大の満月スーパームーンと桜を上の写真と同じ場所で眺めた。東京都に緊急事態宣言が出た日である。2020.4.7

日常生活の楽しかった過去の話はしても戦前のこの辺りはどうだったかについては、亡き義父母は多くを語らず、今になって江東橋5丁目町会の婦人会の大先輩方(戦時中は10代?)が「元徳稲荷(墨田区立川3丁目・三の橋際)の縁日はにぎやかだった、東京三大縁日だった。」「緑町に芝居小屋があった」等々、話してくれます。終戦直後、夜は真っ暗で追いはぎや強盗が出た事も教えてくれました。中層マンションやスーパーやコンビニが立ち並ぶ現在の街、以前見た終戦直後の焼け野原の東京の写真、話に聞く戦前の我が街、考えさせられます。

今は菊川橋からスカイツリーと桜を眺めると、その構図の美しさゆえに感傷的になり、新型コロナウイルス感染拡大でこれから世界・日本・我が街はどうなってしまうのだろうと思うのです。橋のたもと、菊川3丁目側の小さな公園には「夢違之地蔵尊」が満開の桜に囲まれてあります。昭和20年3月10日の大空襲で3,000もの人々がこの橋付近で亡くなりました。犠牲者を悼んで祀られたものです。犠牲者の中には小学校の卒業式のため、疎開から帰って来た小学5年生6年生がたくさん入っていました。

橋から見るスカイツリーは絵になります。でも「業平橋駅」が「とうきょうスカイツリー駅」になったのが気に入らないなあと少し前までは見る度に思っていました。墨田区に初めて来た時、業平という地名に感動しました。あの『伊勢物語』の『在原業平』が角田河(隅田川)を渡ってきて『名にしおはゞいざこと問はむ都鳥わが思ふ人はありやしやと』と詠んだところなのねと思ったからです。平安時代の有名人、歌人でしかもイケメンの名前がついた駅名でした。平安時代といえば、雅な国風文化が栄えた反面、政変が何度も起こり、地震や富士山噴火もあり、何度も疫病に襲われたのです。約400年も平安京という大都市に人々が密集して住んでいたのですからあり得ることです。人々は「末法の世」(この世の終わり)と呼び、貴族など身分の高い人々は阿弥陀仏に救いを求めました。

千年前、この世は終わりませんでした。私はスカイツリーを眺めると連想するようになりました。スカイツリー、業平橋、在原業平、平安時代、末法の世、この世は終わらないと。早くコロナ騒ぎが終わって、街の中でご近所さんと楽しくおしゃべりをたくさんしたいなあと願っています。